

「12月、山口市はクリスマス市になる。」



フランシスコ・サビエル

室町時代、山口市を中心に治めていた大内氏は、京都や朝鮮半島、中国大陸から様々な文化、学問、宗教を取り入れ、西国一といわれる経済発展と文化にあふれる個性的なまちづくりを行いました。

第31代当主「大内義隆」は、1551年にフランシスコ＝サビエルの布教の願いを寛容な心で受入れ、翌年の1552年旧暦12月9日（西暦12月24日）、山口市で降誕祭が行われました。

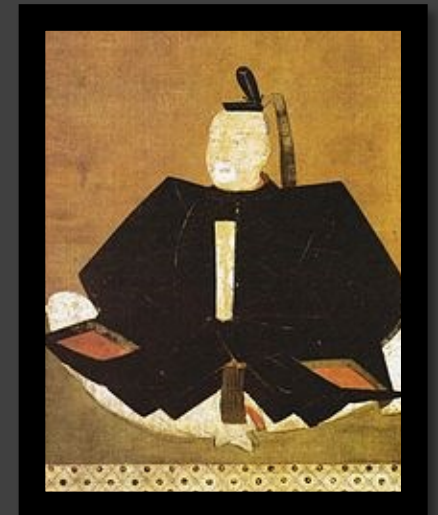
これが日本ではじめてクリスマスが祝われた日と記録されています。

大内義隆とフランシスコ・ザビエルの「きずな」を賛美し、山口市民はクリスマス市民として、歴史に学び、平和で寛容な心の文化が開花するまちの未来を創造しています。

市内は、各所がイルミネーションで飾られ、クリスマス関連のイベントが数多く開催されます。

市長も12月はクリスマス市長として活動し、名刺もクリスマス市長に変わります。

山口市民の
合言葉!!



大内 義隆